

ひとつでも多くのコンテンツを、
ひとりでも多くの人へ



Media Do
HOLDINGS

株式会社メディアドゥホールディングス
2019年2月期 通期決算説明会

証券コード：3678

- 1. 事業概要**
- 2. 市場環境**
- 3. 連結業績ハイライト**
- 4. 今後の成長方針**
- 5. 2020年2月期計画**
- 6. 参考資料**

1. 事業概要

Mission

著作物の健全なる創造サイクルの実現

Vision

ひとつでも多くのコンテンツを、ひとりでも多くの人へ

具体的には

メディアドウの **Position** を活かし、
人 × IT × 戦略によって電子書籍を世に広め、
出版市場自体を拡大する

メディアドゥは「電子書籍取次最大手」



メディアドゥの実績

出版社口座数**1,700**以上

(うち非マンガ出版社**1,260社**)

主要出版社※1の**全て**

電子書籍を提供する出版社の**99%以上**※2

出版社
から
の信頼

取引書店数**150店**以上

ユーザー利用率上位20書店※3の**全て**

書店から
の信頼

※1 日本書籍出版協会に加盟している出版社（2018年6月30日現在、415社）のうち、オーディオブックなど非出版系の出版社を除いた企業を主要出版社と定義

※2 メディアドゥ調べ。なお、売上高が少額、または、定期的な刊行物がない出版社等を除く

※3 インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2018」における「半年以内に購入したことがある電子書籍ストア Top20」

2. 市場環境

当社の主な事業ポジション①

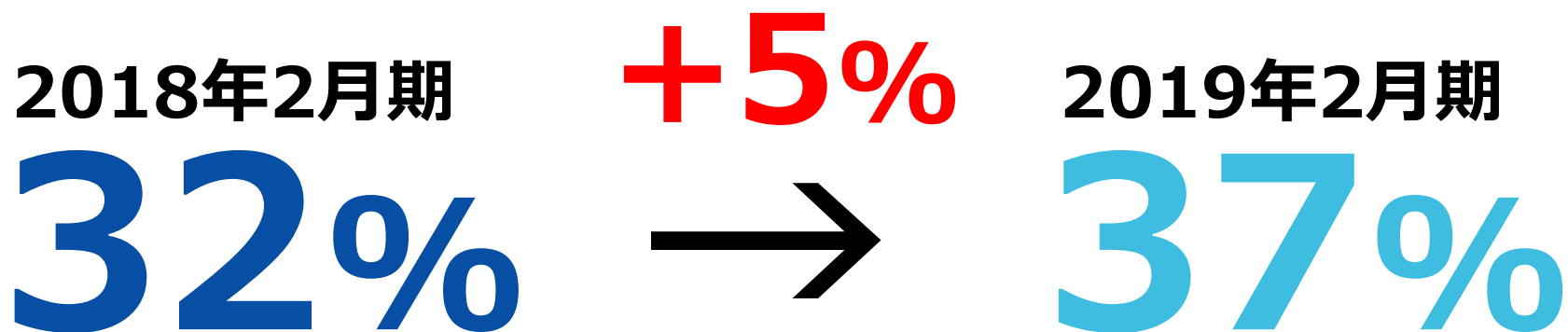
電子書籍流通の37%はメディアドゥ経由



出所：インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2018」 ※1 当社計算に基づく。 ※2 2018年度の予想値を記載。

当社の主な事業ポジション②

メディアドゥ流通シェア※が急拡大



海賊版サイト閉鎖以降、
電子書店によるプロモーションが拡大

メジャー書店との取引が多い
メディアドゥのシェアが増加

※当社流通総額は2018年2月期 710億円、2019年2月期 950億円。

電子書籍市場規模はインプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2018」に基づき、2017年度実績 2,241億円、2018年度予想 2,550億円として試算した。

3. 連結業績ハイライト

本業好調により売上・利益とも大幅増加

連結

売上高 505億円（前期比+36%）

営業利益 14.6億円（前期比+58%）

EBITDA 23.8億円（前期比+34%）

当期純利益 ▲12.4億円

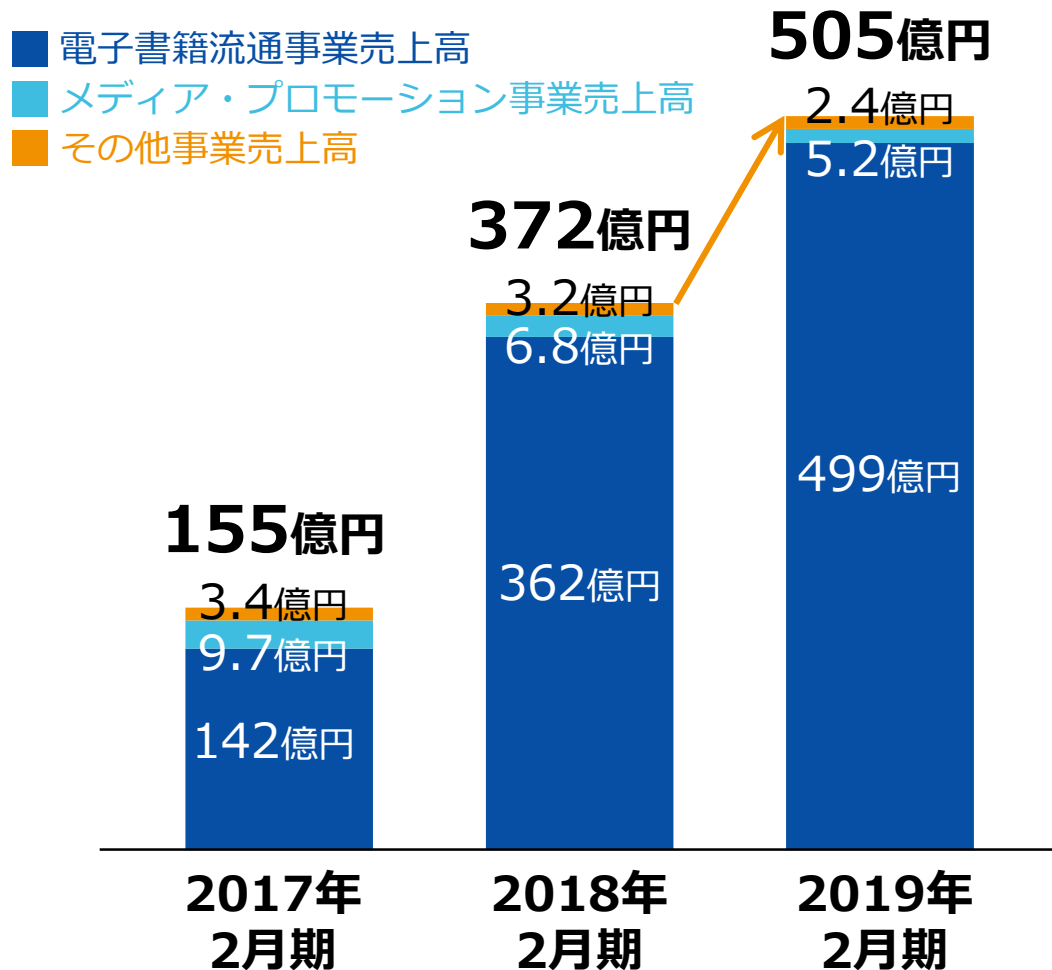
うち電子書籍流通事業

売上高 499億円（前期比+38%）

営業利益 15.2億円（前期比+67%）

連結業績ハイライト②

連結売上高は500億円を突破



前期比
+36%
133億円増加

注1：2017年2月期は単体、2018年2月期、2019年2月期は連結の値を記載。

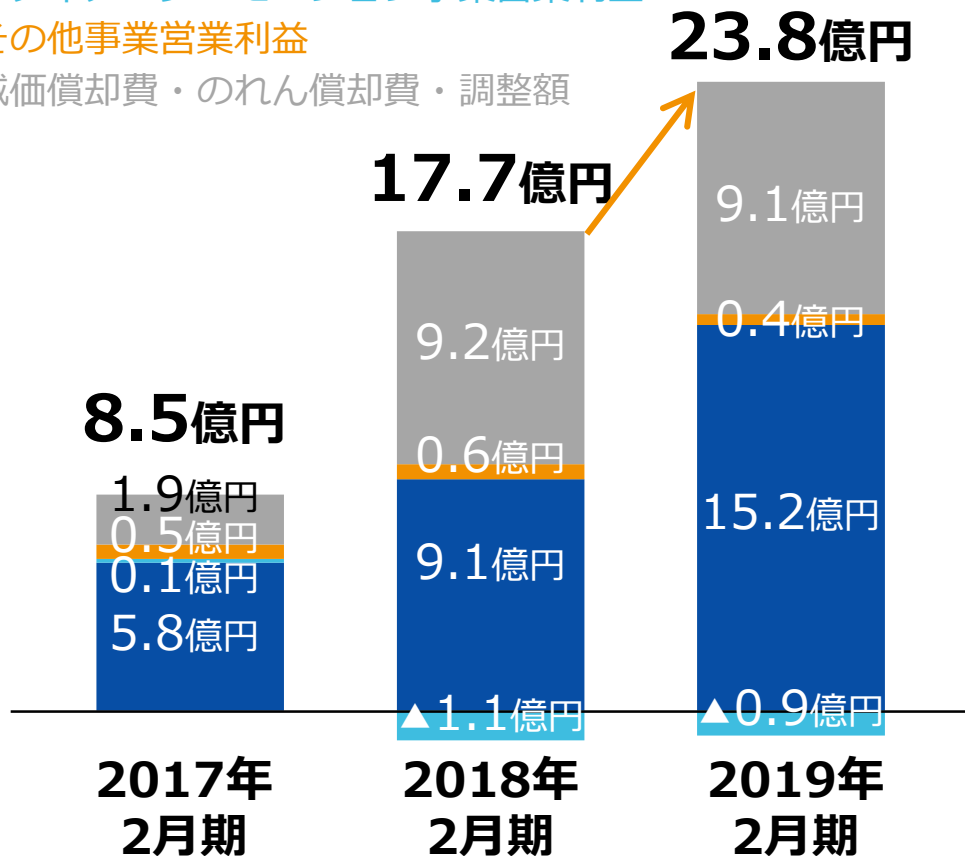
注2：2017年2月期は電子書籍事業⇒電子書籍流通事業、その他事業⇒メディア・プロモーション事業、音楽・映像事業およびゲーム事業⇒その他事業とセグメントを変更した値を記載。

注3：2018年2月期、2019年2月期の売上高調整額は少額のためグラフでは省略。

連結業績ハイライト③

連結EBITDAも大幅に増加

- 電子書籍流通事業営業利益
- メディア・プロモーション事業営業利益
- その他事業営業利益
- 減価償却費・のれん償却費・調整額



前期比

+34%

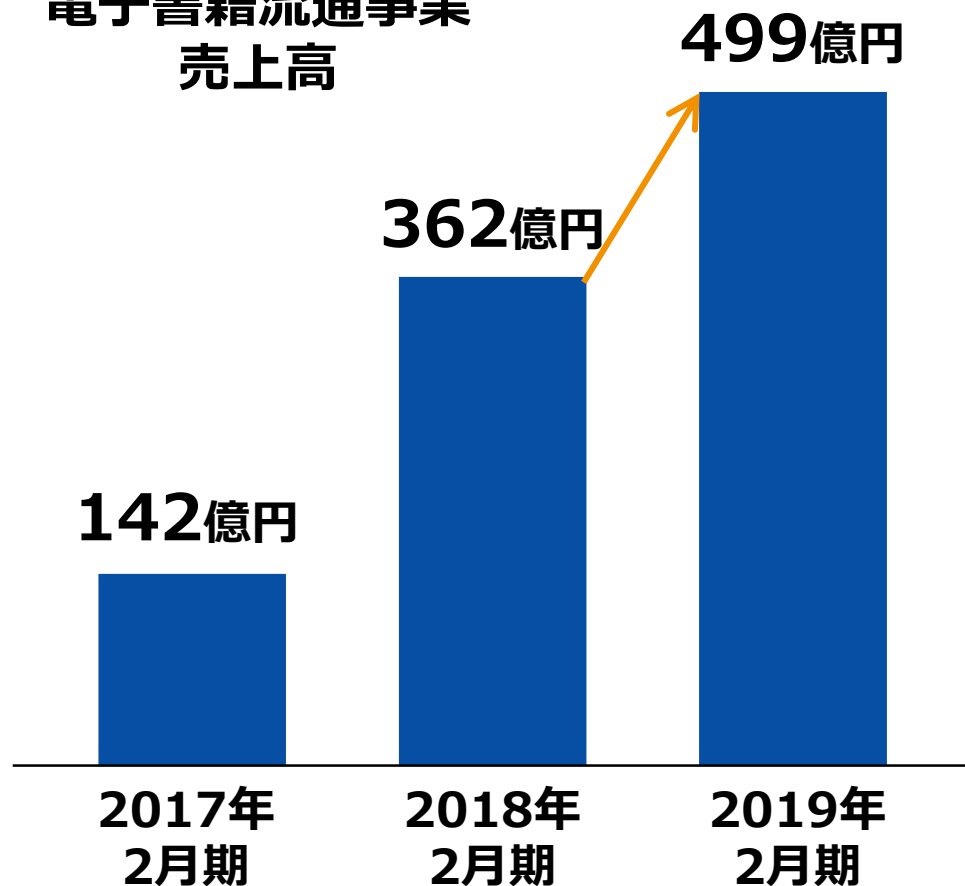
6.1億円増加

注1：2017年2月期は単体、2018年2月期、2019年2月期は連結の値を記載。

注2：2017年2月期は電子書籍事業の値を記載。

本業売上高は引き続き好調に伸長

電子書籍流通事業
売上高



前期比

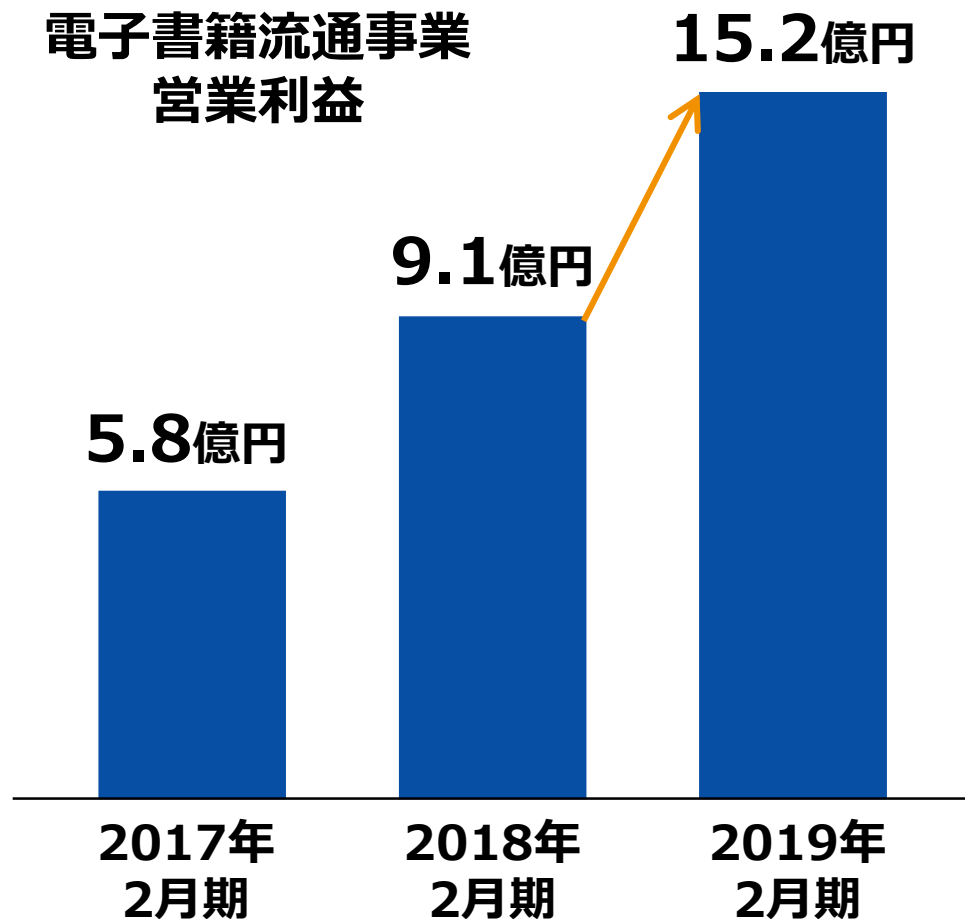
+38%

本業好調
137億円増加

注1：2017年2月期は単体、2018年2月期、2019年2月期は連結の値を記載。

注2：2017年2月期は電子書籍事業の値を記載。

本業好調により営業利益も大幅に増加

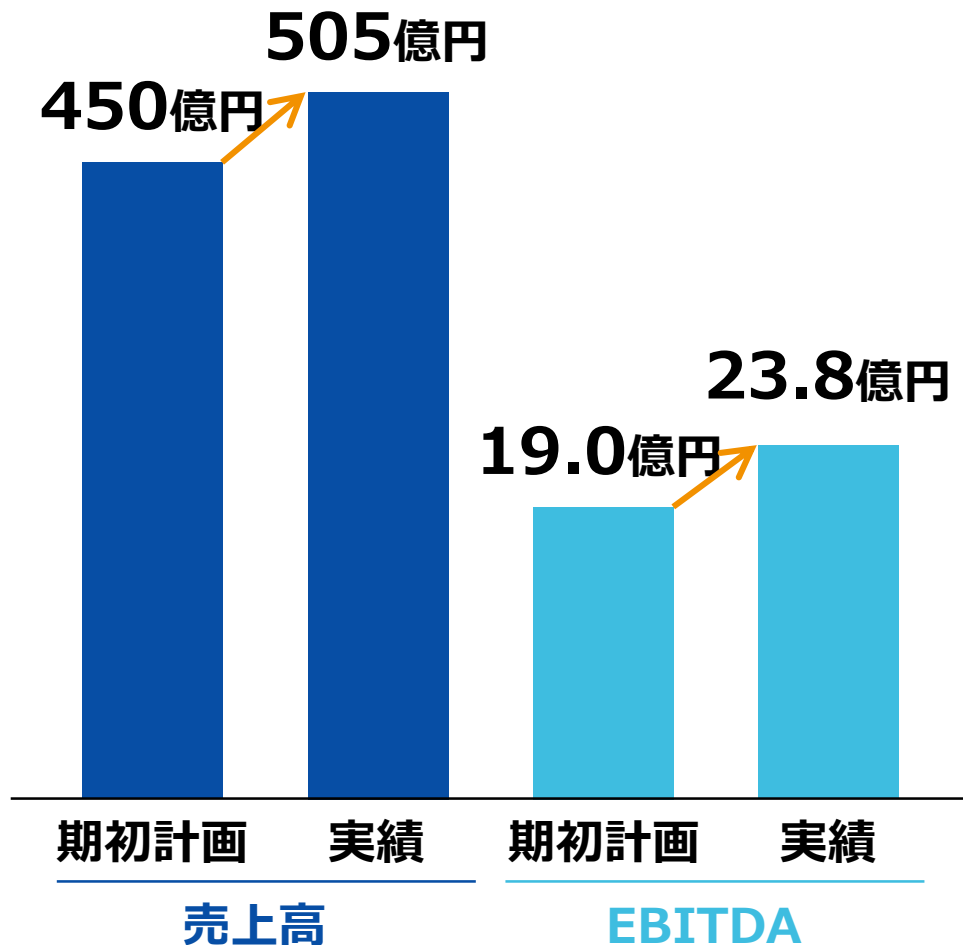


前期比
+67%
本業好調
6.1億円増加

注1：2017年2月期は単体、2018年2月期、2019年2月期は連結の値を記載。

注2：2017年2月期は電子書籍事業の値を記載。

売上・EBITDAは期初計画を大きく超過



達成率

売上高

112%

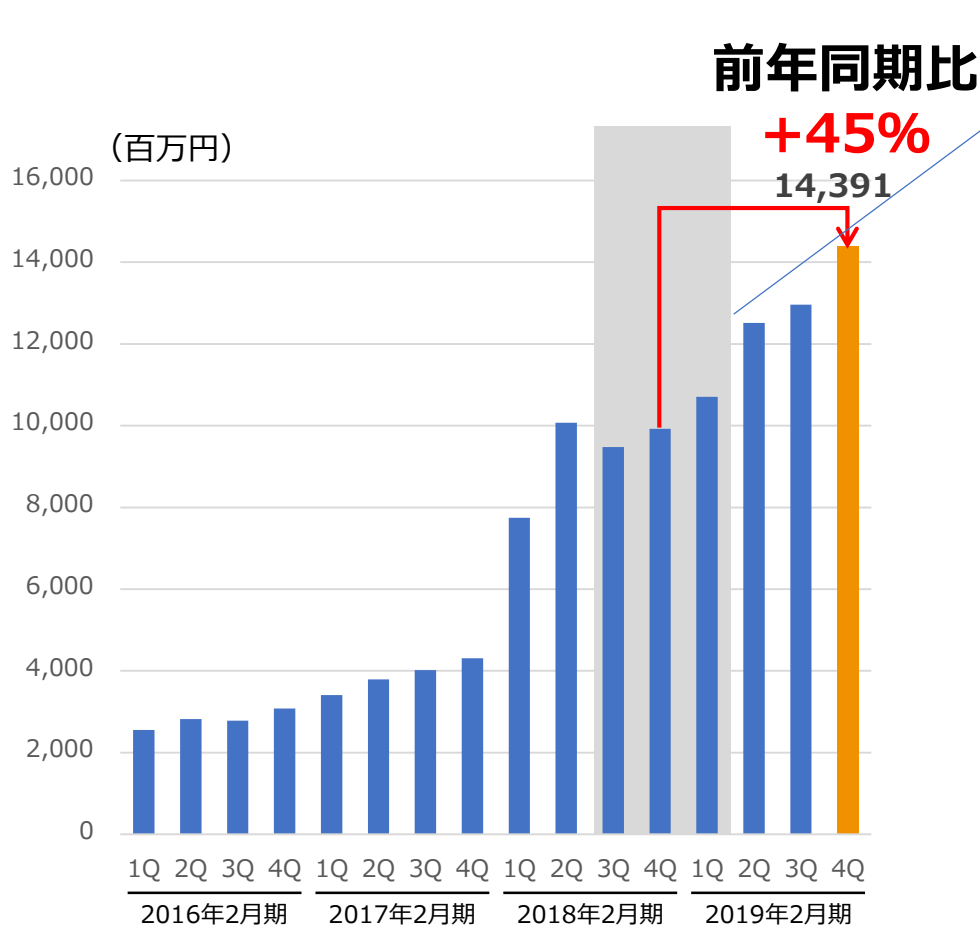
EBITDA

126%

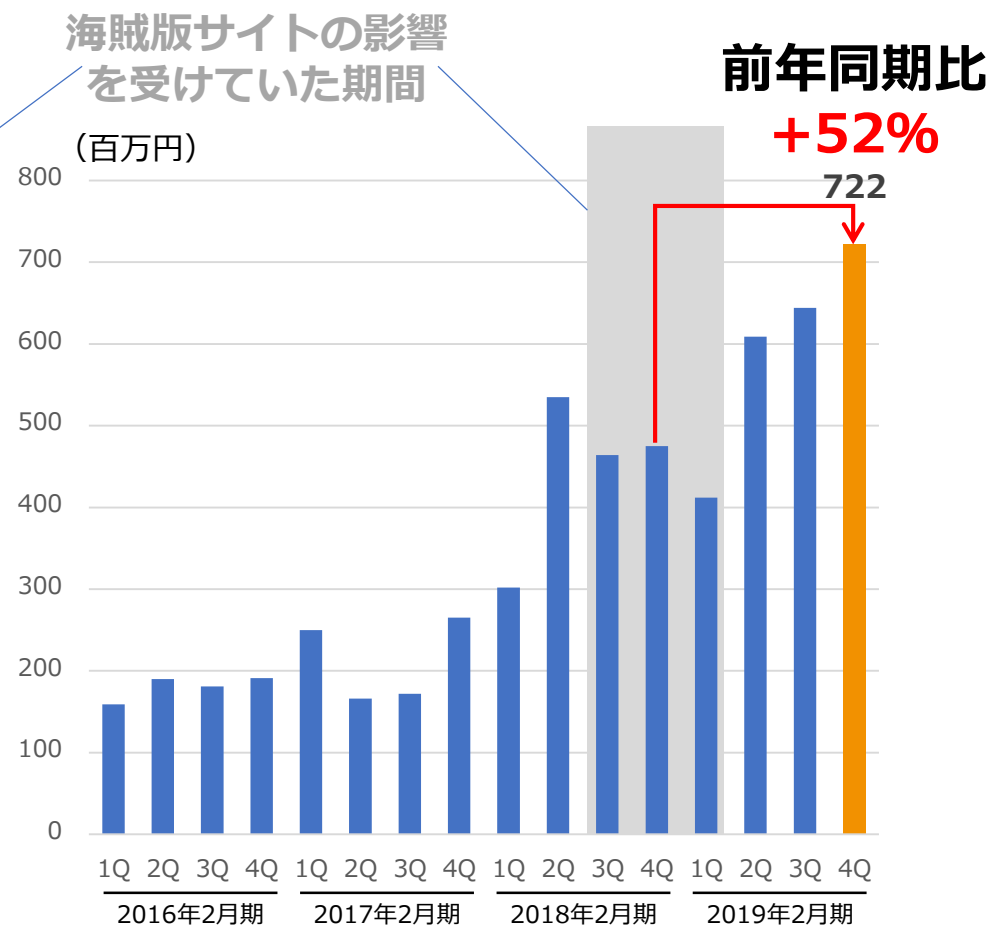
注：期初計画は2018年7月13日に公表した数値を記載。

四半期連結売上高・EBITDAは過去最高

四半期連結売上高推移

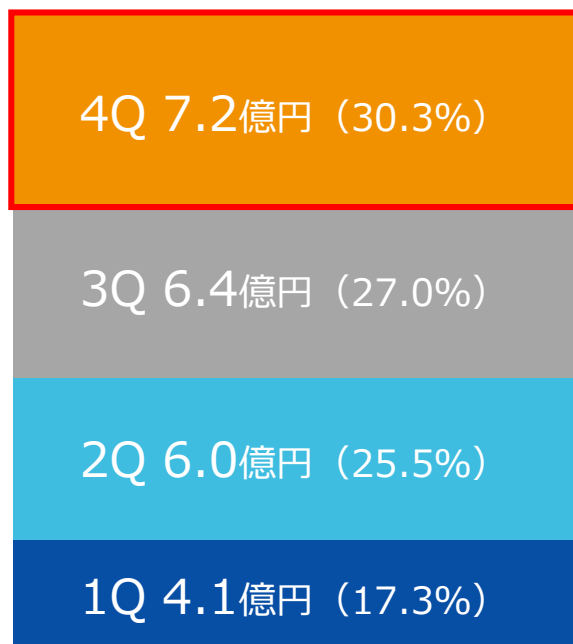


四半期連結EBITDA推移



4Qに連結EBITDAが伸長

23.8億円



2019年2月期
連結EBITDA

通期連結EBITDA
における4Qの
構成比

30%

業績好調のため上方修正、一方で特別損失計上による下方修正を発表

	期初計画	3Q時点 修正予想	実績	期初計画との差異	
売上高	450億円	500億円	505億円	+55億円 (+12%)	上方修正 ↗
営業利益	9.3億円	13億円	14.6億円	+5.3億円 (+58%)	
経常利益	9.4億円	13億円	14.9億円	+5.5億円 (+59%)	
EBITDA	19億円	23億円	23.8億円	+4.8億円 (+26%)	
当期純利益	4.5億円	▲12.5億円	▲12.4億円	▲16.9億円 (—)	下方修正 ↘

4Q実績を踏まえ、特別損失を計上

3Q時点で発表していた 特別損失

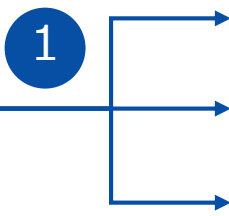
システム減損(統合に伴う見直し)	4.8億円
Internet Research Institute Ltd	5.2億円
Creatubbles Pte. Ltd	4.7億円
その他投資有価証券評価損	4.7億円

合計 19.4億円

4Q時点で実際に計上した 特別損失

システム減損(統合に伴う見直し)	4.8億円
Internet Research Institute Ltd	5.4億円
Creatubbles Pte. Ltd	7.6億円
株式会社メディバン	2.4億円
Lunandscape株式会社	2.6億円

合計 22.9億円



1 投資先、子会社の業績動向に基づく評価見直し

買収子会社はPMIに差が生じた

買収先

事業進捗状況

PMI成否



株式会社フライヤー

買収時から会員規模は2.5倍以上に拡大。さらなる成長に向けて2018年9月に増資、2019年5月にマス広告を実施予定



(事業拡大に向けて増資)



株式会社マンガ新聞

レビュー記事を用いたマンガ販売促進効果を期待したが、当初想定は下回った



(のれん償却済み)



株式会社アトランテイメント

人材採用が計画未達となっているが、ニーズは高く、損益は改善傾向



(遅延していた採用計画に目途)



Lunandscape株式会社

ブラウザを活用した新たな電子書籍販売を想定していたが、現在はメディアドゥの開発受託を担っており、事業方針が変更



(特別損失計上)



株式会社出版デジタル機構

基幹システムや組織整備が進み、2019年3月にメディアドゥと合併。今後は更なる効率化を実施



(メディアドゥと合併)



株式会社Jコミックテラス

広告市況の悪化や類似無料サービスの増加によって当初想定に比べて売上は未達



(損益改善に着手)

連結業績ハイライト⑫

2019年2月期 期末配当 **10円50銭**

※2019年4月25日の取締役会にて決議予定



2020年2月期（予想）については、安定的かつ継続的な配当として10円50銭とさせていただきますが、経営目標のひとつである総還元性向20%以上を念頭に置いて判断いたします。

※総還元性向 = (配当金支払総額 + 自己株式取得総額) / 親会社株主に帰属する当期純利益

4. 今後の成長方針

今後の成長方針①

メディアドウ最大の強み

Position

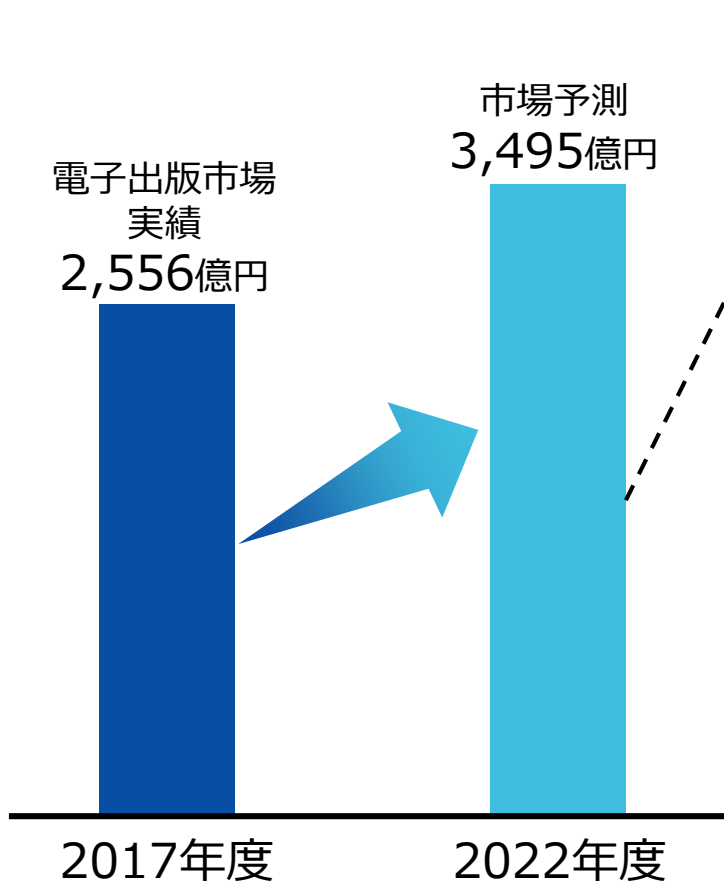
×

Technology



**“Publishing Platformer”
新時代のプラットフォームを創る**

「LEGACYを作る」 = 電子書籍市場拡大 ならびに流通カロリーの低減



出所：インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2018」

LEGACYを作る

- 電子書籍市場の拡大促進のためのキャンペーン数増加
- 効率的なファイル管理および効果的なマーケティングデータの提供を行うための電子書籍取次システム統合

体制の効率化・強化

他に真似できない電子書籍流通を 支える**プロフェッショナル**集団

体制

出版営業、書店営業、運用管理

総勢**300名**以上の体制

市場拡大を支える
出版社・書店と連携
したマーケティング
施策

ユーザーの細かい
ニーズに合わせた多
種多様なコンテンツ
(巻/話) 対応

年齢、性別、ジャン
ルなど書店ごとの
マーケティングデー
タ提供

実績

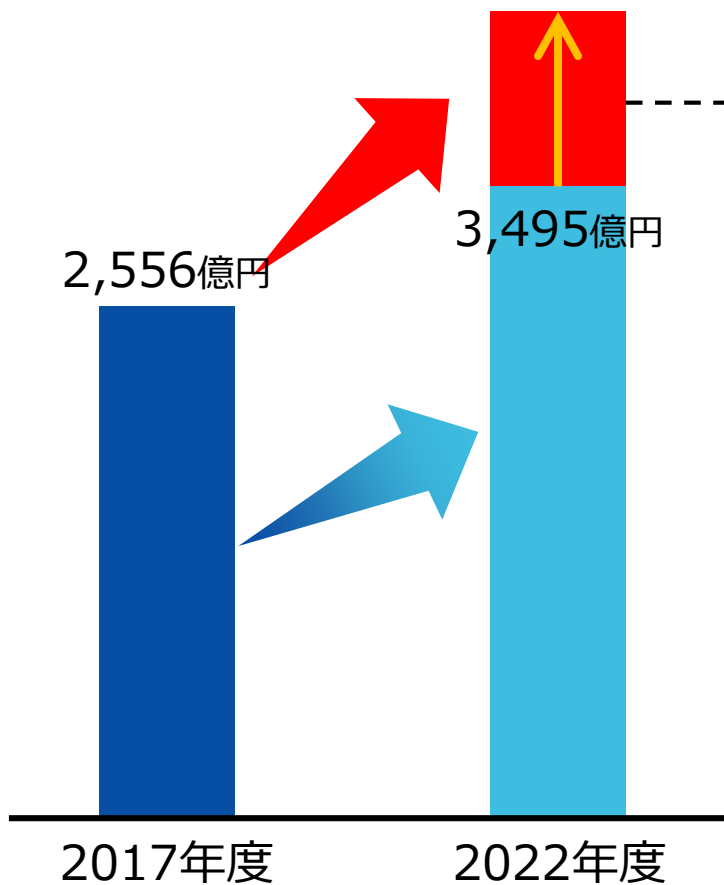
キャンペーン管理数 年間**1万件**

取扱稼働コンテンツ **60万点**以上

(コミック30万点、書籍その他30万点)

今後の成長方針④

「LEGACYを創りに行く」 = 先端技術 活用により更なる市場拡大



出所：インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2018」

LEGACYを創りに行く

- 「不安を安心に、不便を便利に」するため、紙に比べて電子書籍が劣っている点を解消（所有権や二次流通がない点など）
- 先端技術を活用した新たな流通プラットフォーム

新市場の創造

現在の電子書籍は「流通革命」に過ぎない 次なる革命を当社自ら起こしていく

メディアドゥのポジションが可能にする未来

これまで紙の本



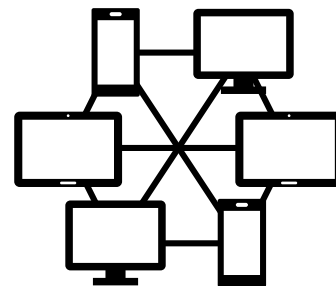
印刷製本技術の発展により低コストで誰でも本を楽しめるようになった

現在の電子書籍



24時間365日、本を購入することができ、大量の本を持ち運べるようになった

これからのコンテンツ



非中央集権的システムによって本・コンテンツの価値とユーザーの地位を高める

今後の成長方針⑥

今期コスト削減に着手し、来期に効果発現

中計初年度

今期（中計2年目）

中計3年目

2019年2月期

2020年2月期

2021年2月期

基盤構築/先行投資

効率化に向けた 構造改革

新たな成長 フェーズへ

LEGACYを 作る

- 新電子書籍取次システム開発
- 取次事業統合準備

- 新取次システムへ移管（サーバー費用重複）
- コスト削減着手

- 新体制での効率的な業務運用と体制強化

LEGACYを 創りに行く

- 新流通プラットフォーム研究開発体制構築

- 新流通プラットフォーム開発着手

- 新流通プラットフォームβ版サービス発表

グループ会社

- フライヤー体制強化
- MyAnimeList買収
- 他グループ会社管理強化

- フライヤー広告投資
- MyAnimeList体制強化
- 他グループ会社体質改善

- フライヤーは圧倒的No.1サービスへ
- MyAnimeList世界展開
- 他グループ会社収益化

今後の成長方針⑦

2019年3月1日 メディアドゥ・出版デジタル機構合併



PHASE 1

PHASE 2

PHASE 3

競争

(2002-2016年)

効率化

(2016-2022年)

合従連衡

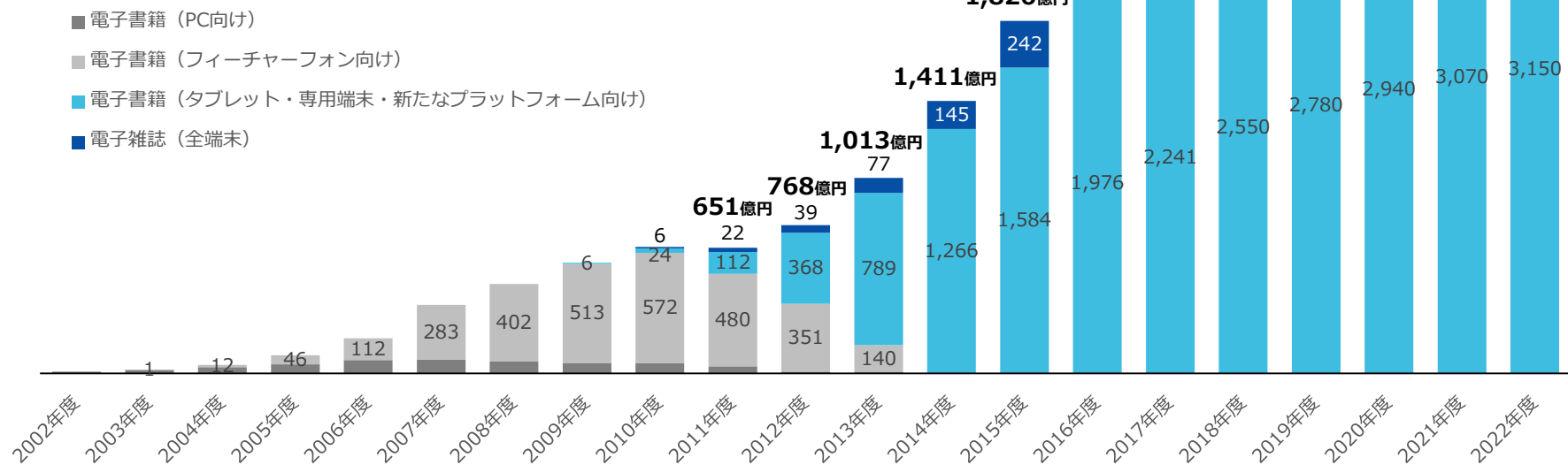
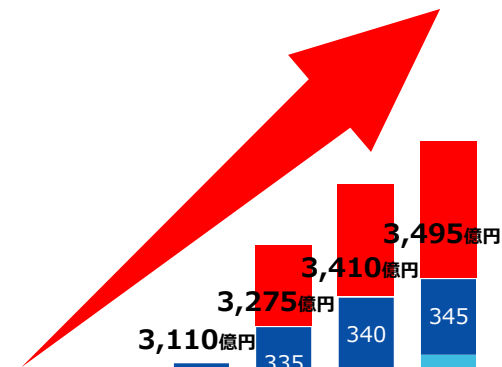
(2022年-?)



出版デジタル機構子会社化、基幹システム統合、戦略投資
によって合従連衡フェーズに備えた基盤整備を実行

今後の成長方針⑧

メディアドゥの存在意義 = 電子書籍市場の成長促進と 技術革新により更なる拡大



出所：インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2018」

ESG経営による持続可能な成長を模索

道徳経済合一

環境

Environment

- 電子書籍利用推進による紙使用量削減や物流コスト削減が環境負荷抑制に直結

社会

Social

- 本との接点を増やし読書時間増加を促進
- 海外への日本文化発信に貢献
- 徳島での人材活用による地域社会活性化

ガバナンス

Governance

- 社員株主 96% (対象社員^{※1} 271人中 260人)
- 社外取締役構成比 33% (取締役6人中 2名)
- 女性管理職比率 14.2% (他社平均^{※2} 11.6%)
平均勤続年数の男女差 0.5年 (他社平均^{※2} 2.8年)

※1 2019年3月1日時点で株式会社メディアドゥホールディングス、株式会社メディアドゥに所属しており、今後も在籍が見込まれる者を対象。

※2 他社平均は厚生労働省「女性の活躍推進企業データベース」における情報通信業の値を記載。

社員株主増加によるガバナンス強化

2019年4月11日付で
代表取締役社長 藤田から社員等への株式無償譲渡

出版業界を
テクノロジーで
牽引する自覚

東証一部
上場企業社員と
しての法令順守

株主目線での
高い利益成長
への意欲

社員のオーナーシップマインド醸成による
コーポレート・ガバナンス強化

5. 2020年2月期計画

2020年2月期計画（概要）

売上高

電子書籍市場の力強い成長に
ともなって増加

利益

本業はシステム・運営費用が
ダブルコスト（来期は削減）、
子会社等の投資実行のため微増

連結

売上高 600億円 (前期比+19%)
営業利益 15億円 (前期比+2.2%)
EBITDA 24億円 (前期比+0.5%)
当期純利益 7.5億円

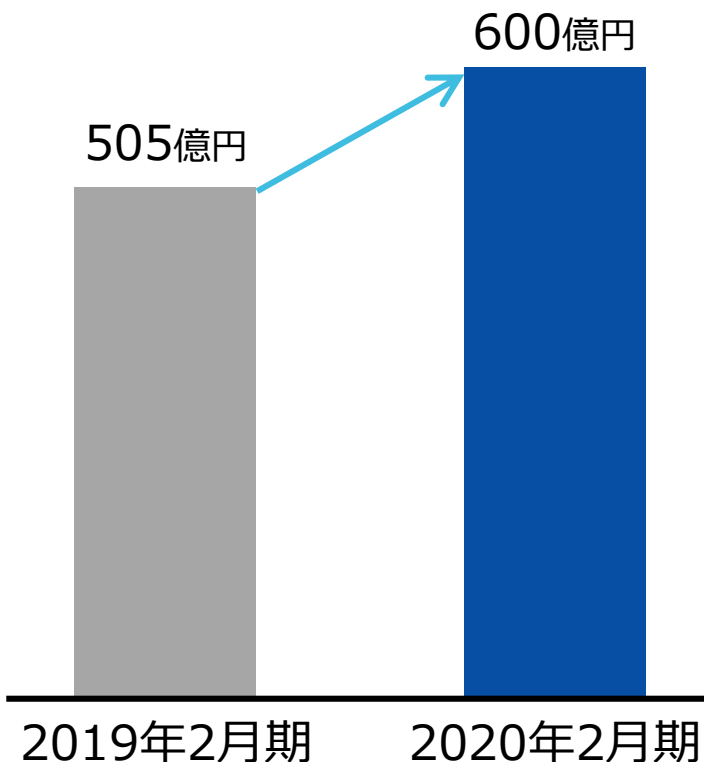
うち電子書籍流通事業

売上高 585億円 (前期比+17%)
EBITDA 25億円 (前期比+6.5%)

連結売上大幅増加・EBITDAは前期比微増

連結売上高

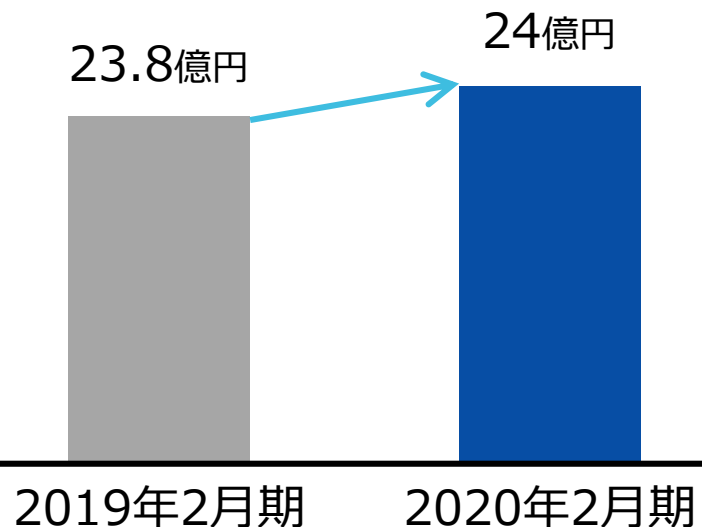
+18.7%



連結EBITDA

ダブルコスト・
先行投資

+0.5%



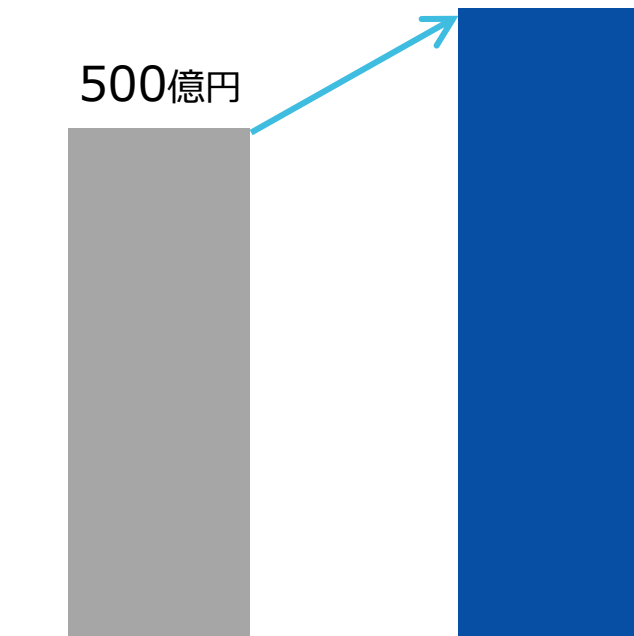
本業は売上・利益とも好調

本業※ 売上高

+17.0%

500億円

585億円



2019年2月期

2020年2月期

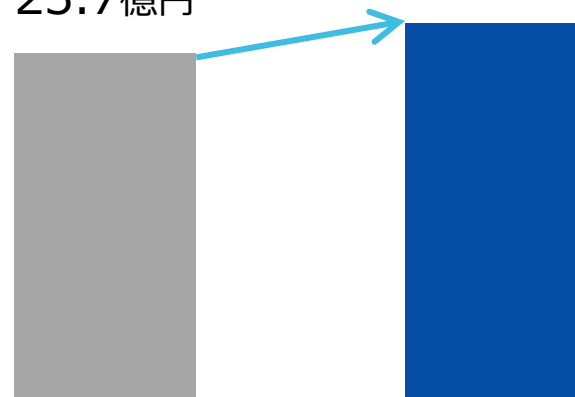
本業※ EBITDA

ダブルコスト
(システム・運用)

+6.5%

23.7億円

25億円



2019年2月期

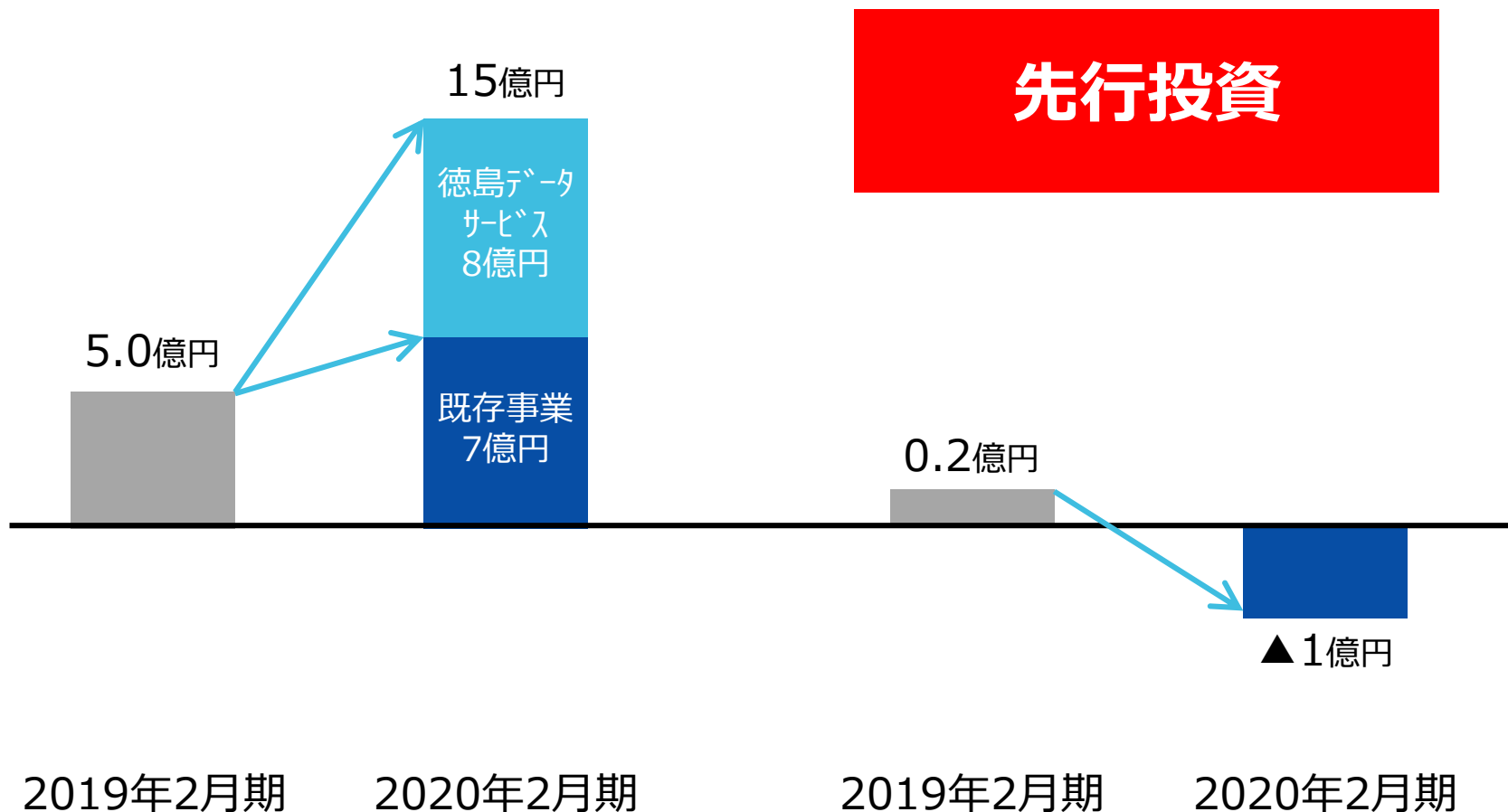
2020年2月期

※メディアドゥホールディングス、メディアドゥ、メディアドゥテック徳島、Media Do International, Inc.の合計値を記載。

周辺事業は積極投資実施

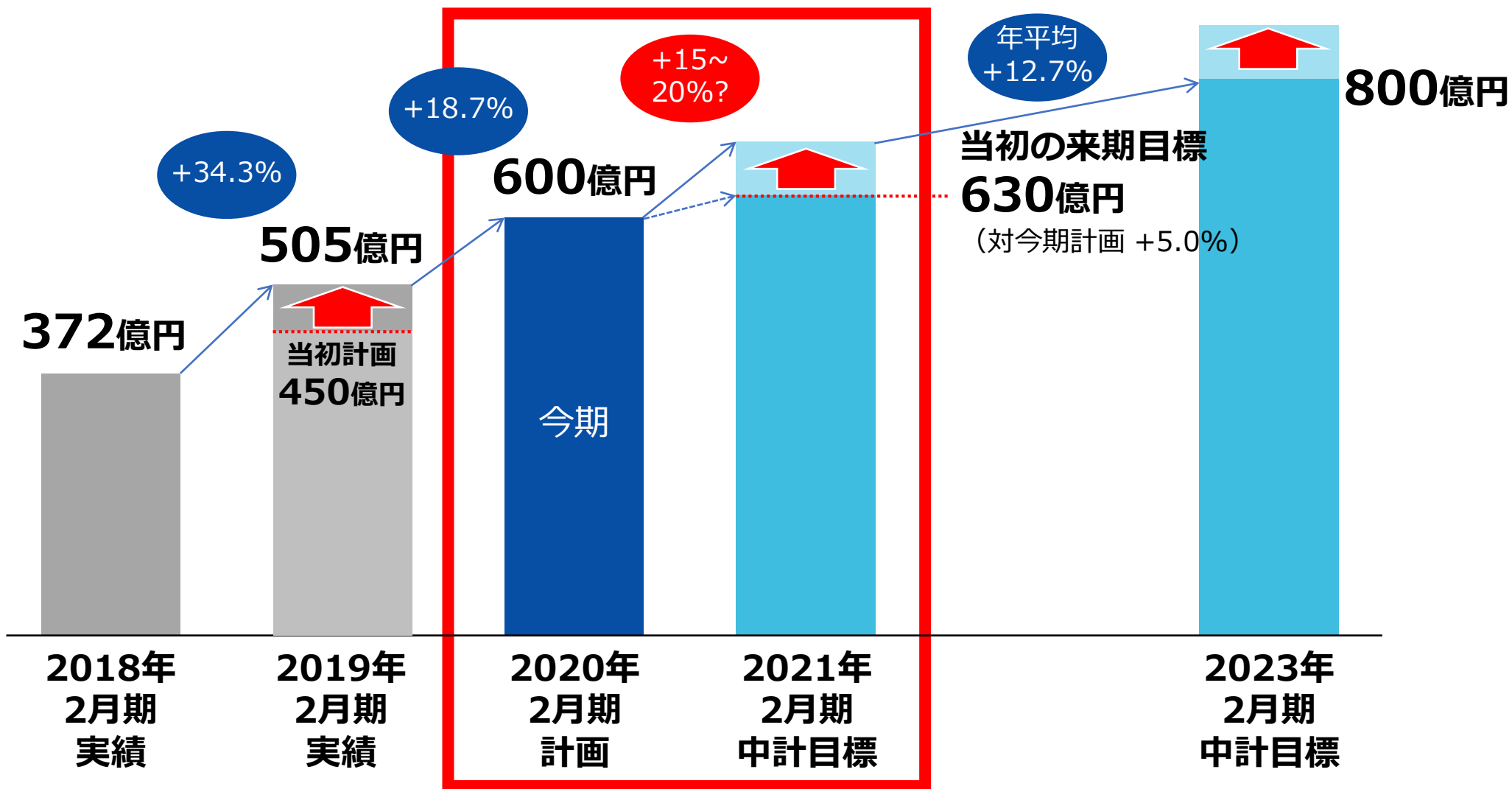
周辺事業 売上高

周辺事業 EBITDA

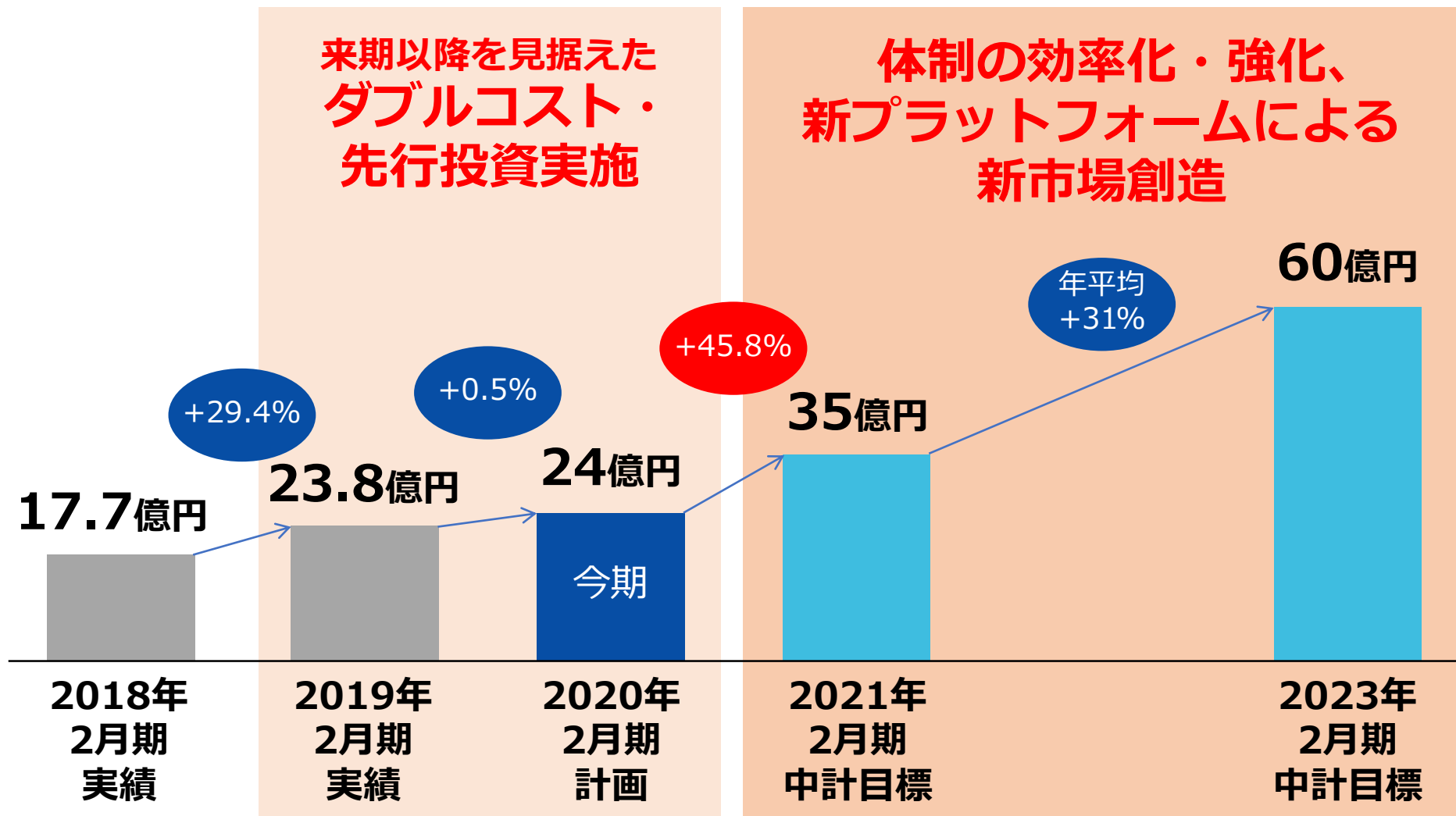


※上記はのれん償却前の営業利益を記載

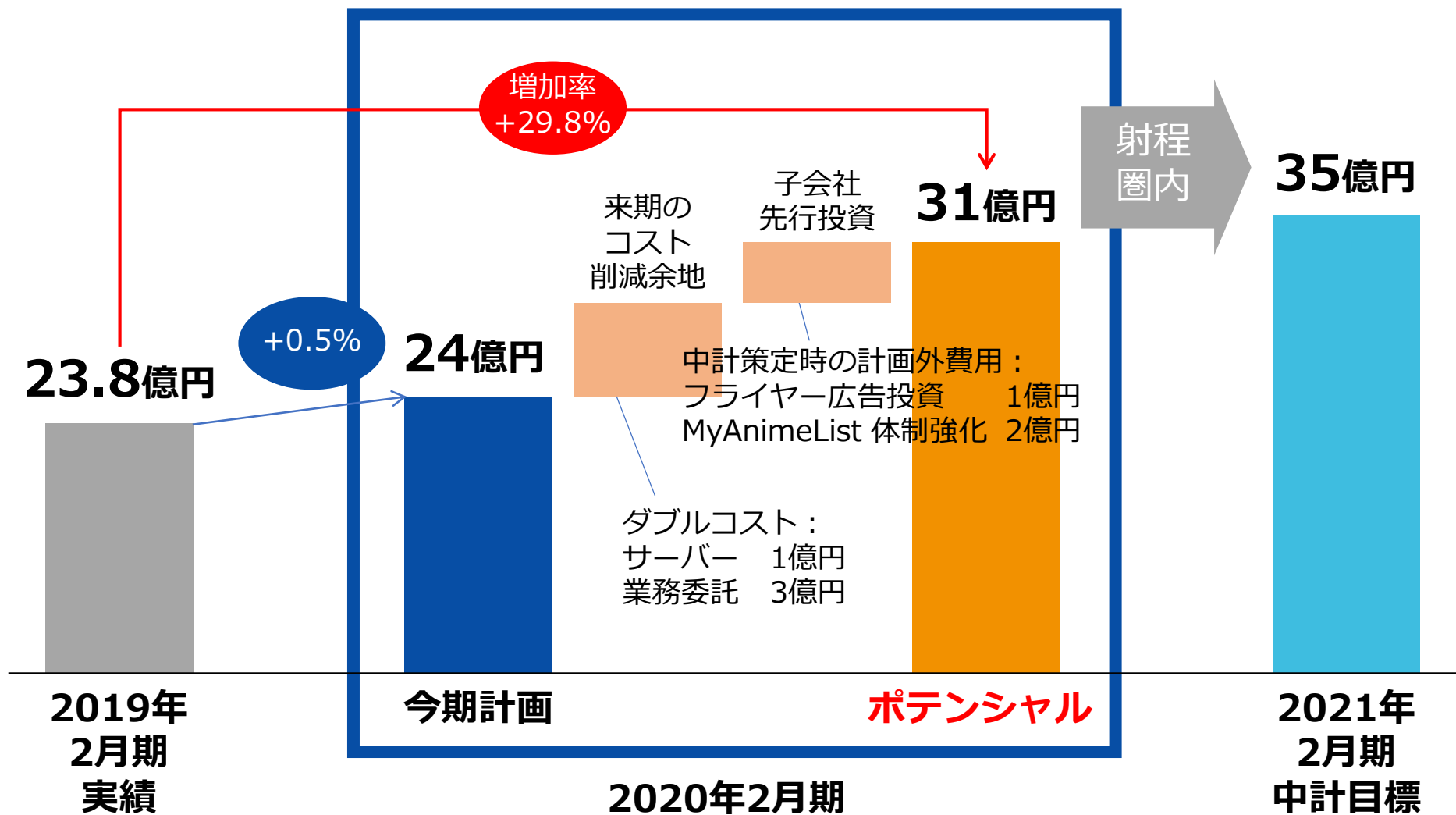
連結売上高は中計目標を超過して推移



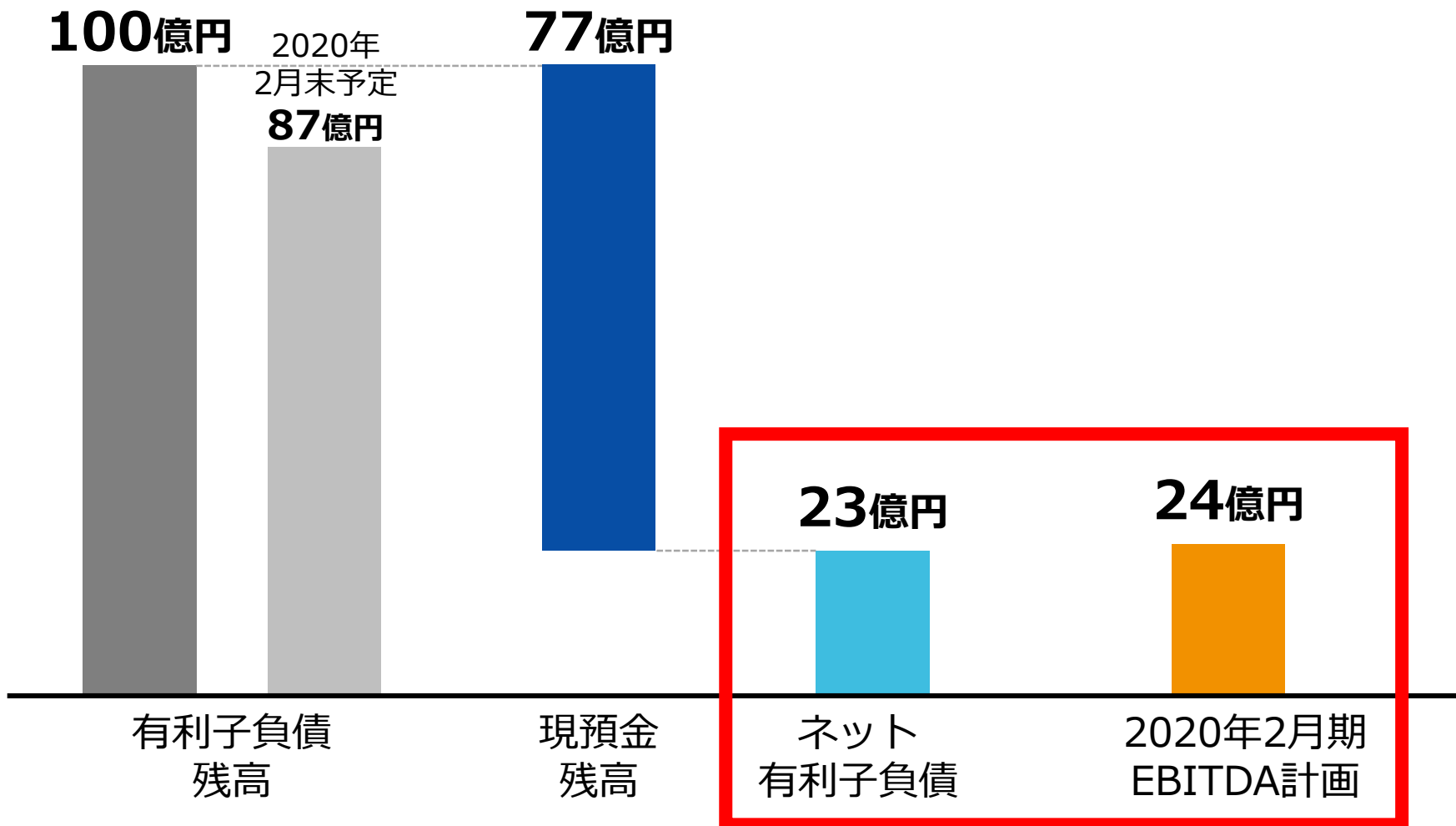
投資期間のため今期連結EBITDAは微増



3年目中計目標連結EBITDAは射程圏内



ネット有利子負債は今期末で解消



※有利子負債残高、現預金残高、ネット有利子負債は2019年2月末時点の値を記載。

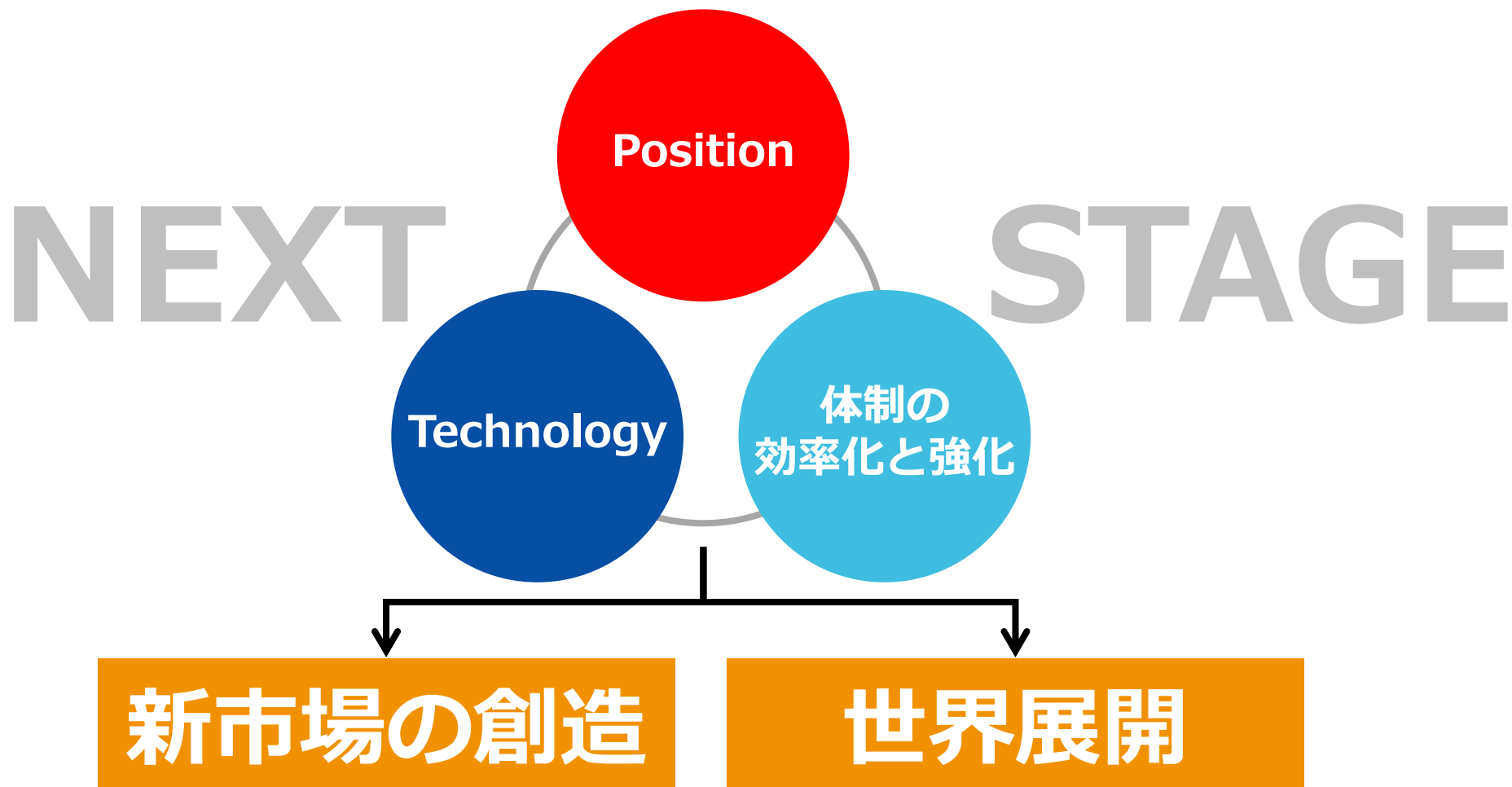
中期経営計画の進捗状況

連結売上高：計画を上回って好調に推移
連結EBITDA：3年目中計目標が射程圏内



**今期中に中期経営計画
の見直しを実施予定**

メディアドゥがやるべきこと = 本の流通イノベーション



メディアドゥは今後も

本

を愛し、出版市場の拡大に貢献してまいります

6. 參考資料

2019年2月期通期実績 (P/L)

(単位：百万円)	2018年2月期								2019年2月期							
	1Q		2Q		3Q		4Q		1Q		2Q		3Q		4Q	
売上高	7,746		10,072		9,474		9,919		10,708		12,510		12,956		14,393	
電子書籍流通事業	7,446	96.1%	9,831	97.6%	9,247	97.6%	9,699	97.8%	10,510	98.2%	12,325	98.5%	12,806	98.8%	14,266	99.1%
① ディストリビューション	4,926	63.6%	7,208	71.6%	6,674	70.4%	7,258	73.2%	7,849	73.3%	8,856	70.8%	9,020	69.6%	10,029	69.7%
② アライアンス	1,881	24.3%	2,000	19.9%	1,879	19.8%	1,809	18.2%	2,022	18.9%	2,736	21.9%	3,027	23.4%	3,451	24.0%
③ ストア運営	357	4.6%	351	3.5%	318	3.4%	297	3.0%	321	3.0%	346	2.8%	339	2.6%	346	2.4%
④ その他	281	3.6%	271	2.7%	374	3.9%	335	3.4%	316	3.0%	386	3.1%	419	3.2%	439	3.1%
メディア・プロモーション事業	214	2.8%	158	1.6%	147	1.6%	139	1.4%	131	1.2%	120	1.0%	87	0.7%	68	0.5%
その他	86	1.1%	81	0.8%	79	0.8%	80	0.8%	66	0.6%	63	0.5%	61	0.5%	58	0.4%
売上原価、販売管理費	7,597 98.1%		9,748 96.8%		9,244 97.6%		9,691 97.7%		10,521 98.3%		12,160 97.2%		12,533 96.7%		13,884 96.5%	
著作料・その他原価	6,455	83.3%	8,442	83.8%	7,936	83.8%	8,349	84.2%	9,064	84.6%	10,718	85.7%	11,084	85.5%	12,357	85.9%
手数料等	56	0.7%	53	0.5%	49	0.5%	46	0.5%	49	0.5%	50	0.4%	49	0.4%	49	0.3%
広告宣伝費	111	1.4%	120	1.2%	96	1.0%	80	0.8%	122	1.1%	125	1.0%	123	1.0%	152	1.1%
人件費等	369	4.8%	408	4.1%	493	5.2%	547	5.5%	690	6.4%	630	5.0%	726	5.6%	683	4.7%
償却費等	153	2.0%	211	2.1%	234	2.5%	248	2.5%	225	2.1%	259	2.1%	219	1.7%	215	1.5%
その他	452	5.8%	511	5.1%	434	4.6%	420	4.2%	370	3.5%	376	3.0%	331	2.6%	425	3.0%
営業利益	149 1.9%		323 3.2%		229 2.4%		227 2.3%		186 1.7%		349 2.8%		422 3.3%		509 3.5%	
経常利益	92	1.2%	311	3.1%	220	2.3%	206	2.1%	189	1.8%	344	2.8%	410	3.2%	548	3.8%
親会社に帰属する当期純利益	-21	-0.3%	191	1.9%	138	1.5%	49	0.5%	62	0.6%	-754	-6.0%	203	1.6%	-754	-5.2%
EBITDA	302 3.9%		535 5.3%		464 4.9%		475 4.8%		412 3.9%		609 4.9%		644 5.0%		722 5.0%	

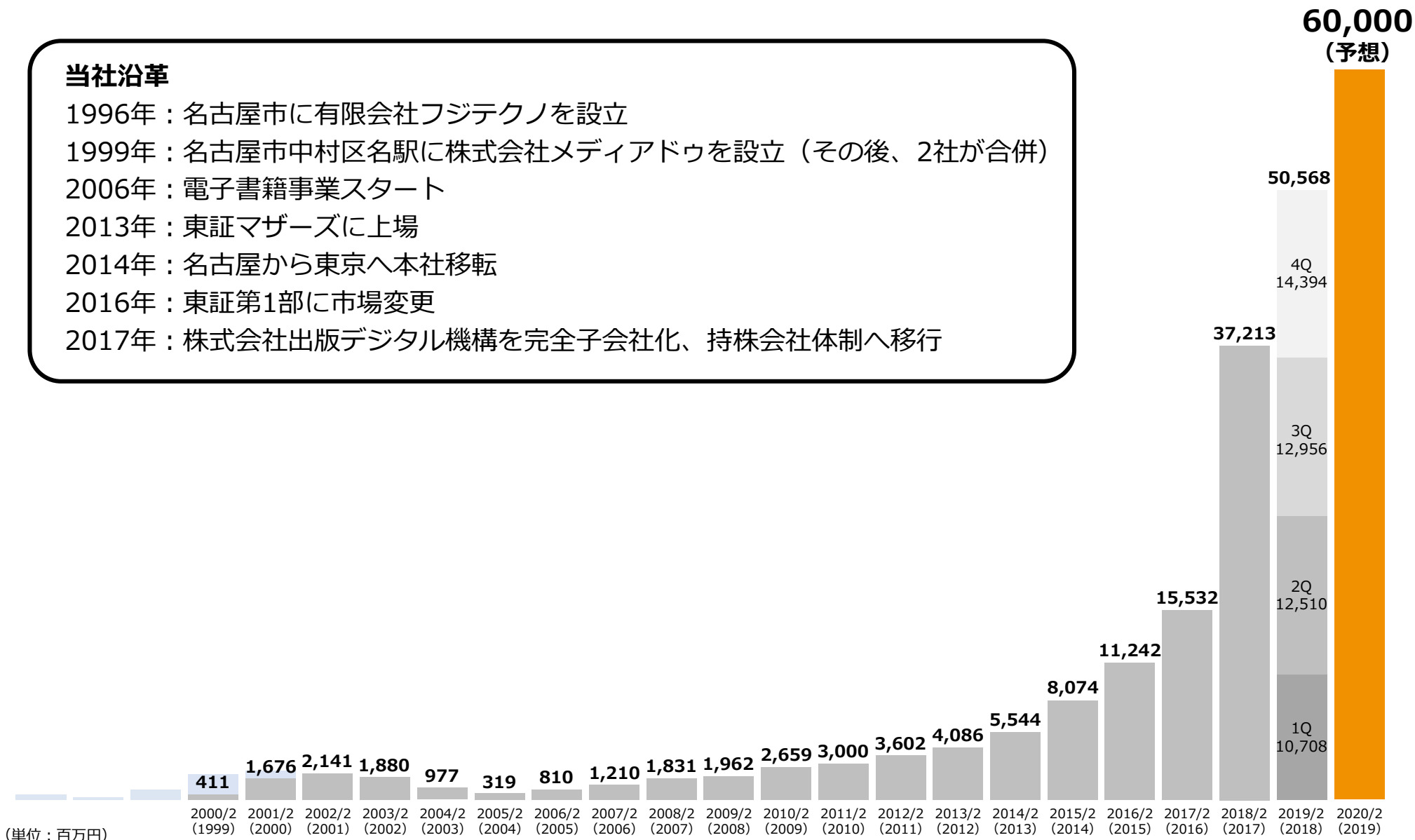
2019年2月期通期実績 (B/S)

(単位：百万円)	2019年2月期		前四半期増減	主たる変動要因、他
	3Q	4Q	(金額ベース)	
流動資産	18,556	21,349	2,792	
現金及び預金	6,793	7,747	953	
売掛金	11,064	12,312	1,247	売上増加と連動した増加
固定資産	10,803	9,614	-1,189	
有形固定資産	516	510	-6	
ソフトウェア	764	293	-470	減損による減少
のれん	6,189	5,807	-381	償却・減損による減少
投資有価証券	2,828	2,902	73	
資産合計	29,360	30,963	1,603	
流動負債	15,496	17,562	2,066	
買掛金	13,099	14,480	1,381	売上増加と連動した増加
1年内返済予定の長期借入金	1,322	1,323	0	
固定負債合計	9,148	8,940	-208	
長期借入金	9,071	8,740	-331	返済による減少
負債合計	24,644	26,502	1,858	
株主資本合計	4,525	4,105	-419	
資本金	1,479	1,650	171	簡易株式交換時の新株発行による増加
資本剰余金	2,382	2,545	163	"
利益剰余金	664	-90	-754	特別損失計上による減少
その他包括利益累計額合計	89	262	173	
新株予約権	72	72	0	
非支配株主持分	28	20	-7	
純資産の合計	4,715	4,461	-254	
負債・純資産合計	29,360	30,963	1,603	

売上高推移

当社沿革

- 1996年：名古屋市に有限会社フジテクノを設立
- 1999年：名古屋市中村区名駅に株式会社メディアドウを設立（その後、2社が合併）
- 2006年：電子書籍事業スタート
- 2013年：東証マザーズに上場
- 2014年：名古屋から東京へ本社移転
- 2016年：東証第1部に市場変更
- 2017年：株式会社出版デジタル機構を完全子会社化、持株会社体制へ移行



(単位：百万円)

会社概要

商 号 : 株式会社メディアドゥホールディングス (MEDIA DO HOLDINGS Co.,LTD.)

設 立 : 1999年4月

資 本 金 : 1,650百万円 (2019年2月末日現在)

上 場 取 引 所 : 東京証券取引所 市場第一部
証 券 コ ー ド : 3678

役 員 : 代表取締役 藤田 恭嗣
取締役 新名 新
取締役 駿田 和彦
取締役 鈴木 克征
社外取締役 榎 啓一
社外取締役 高山 健
常勤監査役 大和田 和恵
社外監査役 森藤 利明
社外監査役 椎名 毅

※取締役は2019年5月28日開催予定の定時株主総会にて選任予定

本 社 : 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル5F (竹橋)
名 古 屋 オ フ ィ ス : 愛知県名古屋市中区丸の内3-5-10 名古屋丸の内ビル9F

子 会 社 : 株式会社メディアドゥ、Media Do International, Inc. (米国サンディエゴ)、株式会社メディアドゥテック徳島、株式会社Jコミックテラス、アルトラエンタテインメント株式会社、株式会社出版デジタル機構、株式会社フライヤー、Lunascap株式会社、株式会社マンガ新聞、MyAnimeList, LLC、株式会社徳島データサービス
関 連 会 社 : LINE Book Distribution株式会社、株式会社エーアイスクエア、テック情報株式会社



株式会社出版デジタル機構





Media Do
HOLDINGS

将来見通しに関する注意事項と 会計監査について

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、本資料内には会計監査人の監査を経ていない財務情報も含まれており、その内容の正確性を完全に保証するものではありません。従いまして、本資料に全面的に依拠した投資等の判断を行なうことは控えていただかずようお願いいたします。

当社IR情報サイト

<https://mediado.jp/ir/>